

ショートコメント vol.242 (2022年5月6日)

テーマ：有効求人倍率の回復の遅れとその要因

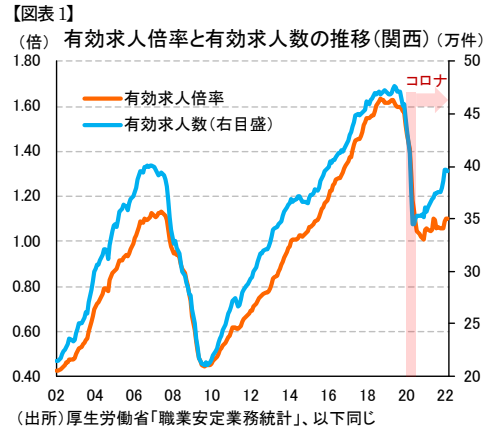
～求人是一定の増加も、雇用のミスマッチが発生～

●足元の雇用情勢の推移

足元の雇用情勢については、全体として緩やかな回復が進んでいる。

ただし、その回復ペースは非常に遅く、雇用情勢の評価を難しいものになっている。たとえば関西の有効求人倍率は、既に底を打ったことは間違いないが、直近の15か月で0.1倍程度の上昇にとどまる(図表1)。水準自体は低くないものの、回復のペースは非常に遅い。

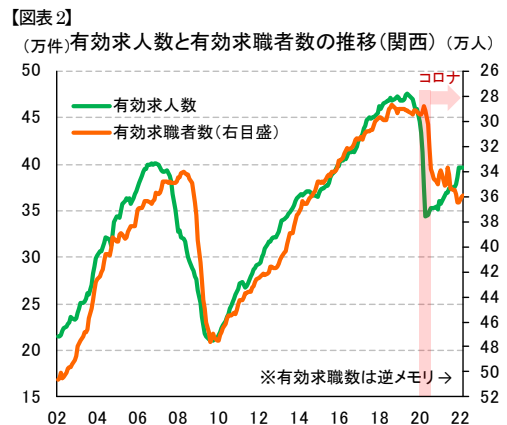
その一方、図表1をみる限り、有効求人数は一定の回復が進んでいる。過去のトレンドでは、有効求人倍率と有効求人数の連動性は高い。今回もその傾向を当てはめれば、求人倍率はもっと上昇してもおかしくなかった。



●コロナ禍によるトレンドの変化

今回、求人倍率と求人数に乖離が生まれた要因は、主に求職者数の推移にある。求人倍率は、求人数と求職者数の割り算で決まるが、図表2のように、コロナ前後で両者の推移は大きく変化している。

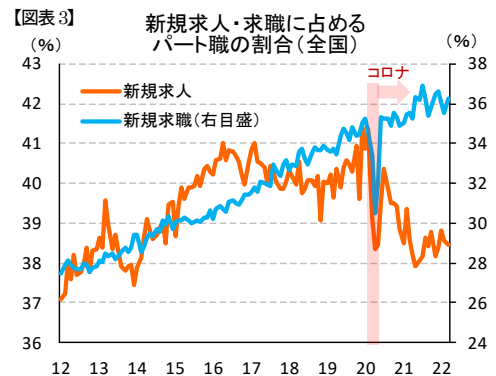
かつては、景気が回復して求人が増える局面では、求職者数は減少に転じたが、今回は両者ともに増加する形となっている。求人が増える局面で、求職者数も増えた要因の一つには、雇用のミスマッチが挙げられよう。求人側と求職側の条件が合わないことで、市場で求職者の滞留が進んだ可能性は高い。



●求人に占めるパート比率の変化

雇用のミスマッチを生んだ要因の一つに、求人に占めるパート社員の比率が挙げられよう。新たに出された求人におけるパートの比率をみると、コロナ禍以降、大きく下がっていることが分かる(図表3)。コロナ前は40~41%で推移していたが、直近は38%台で推移している。スーパーや外食店、コンビニといった業種で求人が減少したことが、主な要因といえよう。

その一方で、パート職を希望する求職者の比率は、コロナ禍以降も上がり続けている。図表3をみる限り、両者のギャップは明らかであり、一つのミスマッチにつながったと考え



※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。

られる。

●求人地域分布の変化

さらに、地理的なミスマッチの存在も挙げられる。

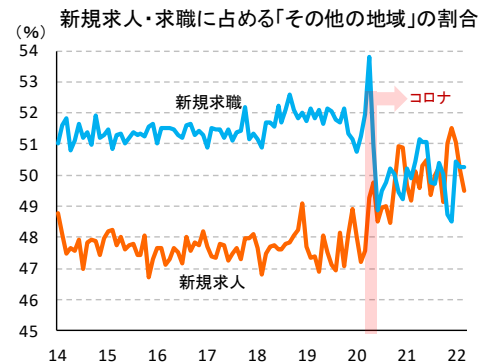
全国を3大都市圏とその他の地域に分けた場合、コロナ禍以降、求人の増加が目立つのは「その他の地域」となっている。その一方、求職者はその他の地域よりも3大都市圏で増えていることから、両者には地理的なギャップが存在する(図表4)。

足元の景気の推移は、新型コロナウイルスの感染状況に連動する中、3大都市圏では依然として一定の感染が続いている。その結果、景気の回復は地方が先行する形となり、求人地域差にもつながっていると考えられよう。

こういった雇用のミスマッチが存在する一方、求人自体は増加基調にあることから、雇用市場の動きは決して悪くないと考えられる。ただし、ここへきて企業の求人はコロナ禍だけでなく、インフレやウクライナ危機による影響も受け始めており、先行きの不透明感は増している。

今後のさらなる雇用情勢の改善には、求人内容や地域的な広がり不可欠となる中、当面の注目点としては、求人全体の推移だけでなく、今回挙げたようなパート比率や地域分布も重要となろう。

【図表4】



本件照会先：大阪本社 荒木秀之
TEL : 06-6258-8805 mail : hd-araki@rri.co.jp

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。